

取扱説明書

安全のために、
ご使用前によくお読みください。

取扱説明書はいつでも参照できるように保管してください。



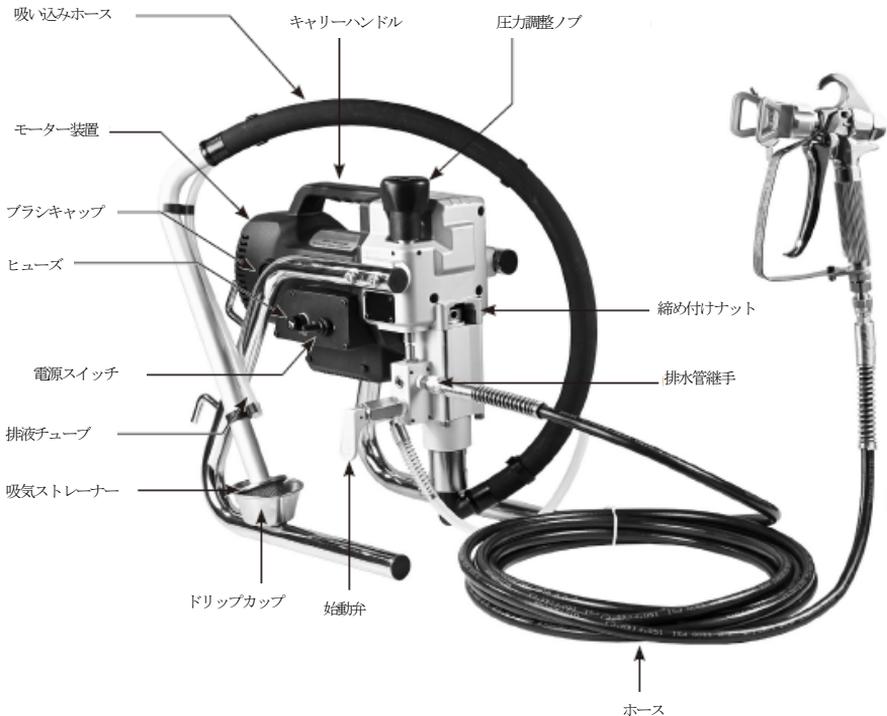
取扱説明書

高圧

エアレス消毒液スプレー機

CECB

モデル	HA10
モーター種別	DC、ファン冷却
電源入力	700W
電圧	本体の銘板を参照
先端部最大サイズ	0.010 インチ
最大流量	1.9 l/分 (0.50 gpm)
最大圧力	96 bar (1400 psi)
寸法 (LxWxH)	36 x 25 x 40 cm
正味重量	11.4 kg (25.1 ポンド)
塗布液剤	水性消毒液



一般安全規則

警告：取扱説明書をよく読み、理解してください。本書に記載されている指示に従わない場合、感電、火災、重大な人身傷害が発生する危険性があります。本書の警告に記載されている「電動工具」という用語は、電源に接続して使用する（コード付き）工具を意味します。

この取扱説明書は大切に保管してください。

作業エリア

1. 作業エリアは清潔に保ち、十分な照明を確保してください。ちらかった作業台や暗い場所は事故の原因になります。
2. 電動工具は、引火性液体、ガス、粉塵などが存在する爆発性空間内で操作しないでください。電動工具の使用時にはスパークが発生するため、粉塵や噴煙に引火する可能性があります。
3. 電動工具を操作する場合は、近くに他の作業員、子供、訪問者などがいないことを確認してください。注意が散漫になると、工具の制御を失う原因になります。

電気に関する安全

1. 電動工具のプラグはコンセントに合っていないければなりません。プラグは絶対に改造しないでください。アース付き電動工具でプラグのアダプターを使用してはなりません。プラグを改造せず、正しいコンセントに差し込むことで、感電の危険性が低減します。
2. アース付き工具は、すべての法規制に従って取り付けと接地を行ったコンセントに差し込む必要があります。絶対にアース端子を取り外したり、プラグを改造しないでください。アダプタープラグは使用しないでください。コンセントを正しく接地しているか不明な場合は、資格のある電気技術者に確認を依頼してください。工具に電氣的な不具合や故障が発生した場合は、アースが抵抗の少ない経路になり、電気を逃がすことができます。
3. パイプ、ラジエーター、レンジ、冷蔵庫などの接地した面には触れないようにしてください。身体が接地した状態になると、感電の危険性が増大します。
4. 雨に晒されたりする場所に電動工具を持ち込まないでください。電動工具に水が入ると、感電の危険性が高まります。
5. コードは正しい用途に使用してください。コードを持って電動工具を運んだり、コンセントから引き抜いたりしないでください。コードを熱、油、尖った物、可動部に近づけないでください。損傷したコードは直ちに交換してください。コードが損傷したり絡まったりすると、感電の危険性が高まります。
6. 電動工具を屋外で操作する場合は、屋外用の延長コードを使用してください。屋外用のコードを使用することで、感電の危険性が低減します。

安全のために

1. 電動工具を操作する際には、自身の動きに常に注意を払い、常識的な判断で安全を確保してください。疲労時や、薬物、アルコール、医薬品の影響がある状態で工具を使用してはなりません。電動工具の操作中に注意がそれると、重大な人身傷害が発生する危険性があります。
2. 安全装具を着用してください。必ず保護めがねを着用してください。防塵マスク、滑り止め加工の安全靴、ヘルメット、聴力保護具などの安全装具を適切に使用することで、人身傷害の危険性が低減します。
3. 誤って始動させないようにしてください。スイッチがオフになっていることを確認してから、コンセントに差し込みます。スイッチに指を置いて工具を持ち運んだり、スイッチをオンにしたままコンセントに差し込むと、事故の原因になります。
4. 電動工具の電源を入れる前に、調節キーまたはスパナを取り外してください。工具の回転部分にスパナやキーが取り付けられたままであると、人身傷害が発生する危険性があります。
5. 無理に手を伸ばさないでください。常にしっかりした足場とバランスを確保してください。それにより、予期しない状況でも電動工具を適切に操作できます。
6. 身につけるものに注意を払ってください。ゆるい服や宝飾品を着用して操作しないでください。髪、衣服、手袋を可動部に近づけないでください。ゆるい服や宝飾品、長髪は可動部に巻き込まれる可能性があります。
7. 集塵用の装置が提供されている場合は、装置を正しく接続し、正しい方法で使用してください。この種の装置を使用することで、粉塵に起因する危険性が低減します。

使用上の注意と手入れ

1. 電動工具は無理な状況で使用しないでください。用途に適した電動工具を使用してください。正しい電動工具を使用することで、設計されたとおりの作業を正しく安全に行うことができます。
2. スイッチによる電源のオン/オフができない場合は、電動工具を使用しないでください。スイッチで制御できない電動工具は危険であるため、修理が必要です。
3. 電動工具の調整、アクセサリの交換、保管の際には、電源からプラグを引き抜いてください。このような予防的安全措置により、電動工具が誤って始動する危険性が低減します。
4. 使用していない電動工具は子供の手が届かない場所に保管し、またその電動工具の操作方法を知らない者が操作しないようにしてください。訓練を受けずに電動工具を使用するのは危険です。
5. 電動工具はメンテナンスを行ってください。可動部のずれや固着、部品の破損、電動工具の操作に影響するその他の状態の有無を点検します。損傷している場合は、電動工具を修理してから使用してください。多くの事故が、電動工具のメンテナンスの不備が原因で発生しています。
6. 切削工具は常に切れ具合を維持し、汚れがつかないようにしてください。切削工

具のメンテナンスを正しく行い、刃先を鋭利に維持すれば、固着の可能性が減り、制御がしやすくなります。

7. 電動工具、アクセサリ、工具ビットなどは、取扱説明書に従い、その種の電動工具について意図されている方法で、作業条件と作業内容を考慮して使用してください。意図されている以外の方法で電動工具を使用すると、危険な状況が生じます。

点検修理

電動工具の点検修理は、資格のある技術者が必ず同一の交換部品を使用して行う必要があります。

それによって電動工具の安全が保持されます。

電動工具の電源コードが損傷している場合は、点検修理業者が提供する専用のコードと交換する必要があります。

本書で使用する記号

V.....	ボルト	取扱説明書をお読みください
A.....	アンペア	必ず保護めがねを着用してください
Hz.....	ヘルツ	必ず防塵マスクを着用してください
W.....	ワット	必ず聴力保護具を着用してください
~.....	交流電流	安全認証を受けたヘルメットを着用してください
no.....	無負荷速度		電動工具、アクセサリ、梱包材料は、家庭ごみと一緒に廃棄してはなりません
min ⁻¹	1分当たりの回転数 または往復回数		
	一般的な危険性の警告		
	アース付き		

エアレススプレー機の安全規則

この装置は、銃器と同様の注意を払って取り扱ってください。

スプレーを過度に高圧にすると、極めて重大な人身傷害が発生する危険性があります。

警告にはすべて従ってください。

安全規則

警告：スプレーを可燃材料の噴霧に使用しないでください。

警告：噴霧剤に起因する危険に注意し、材料容器のマークまたは噴霧材の製造元が提示する情報を確認してください。

警告：危険性が特定できない場所には、いかなる材料も噴霧してはなりません。

警告：スプレーの清掃に引火点 55°C 未満の可燃性溶剤を使用しないでください。注：不燃性溶剤とは、ここでは引火点が 55°C 以上の溶剤と定義します。

警告：この電気器具は、18 歳未満の方や、身体的、感覚的、または知覚的障害がある方、あるいは電気器具の安全な操作に関する経験または知識が十分でない方は使用しないでください。

警告：子供が電気器具で遊ばないように注意してください。

警告：清掃やユーザーメンテナンスを子供が行ってはなりません。

警告：この電気器具の点検修理中および部品交換中には、電源をオフにしなければなりません。プラグは抜いたままにします。その際、プラグが抜かれていることをオペレーターがどの方向からも確認できるようにする必要があります。

警告：高圧。加圧中のシステムを放置してはなりません。圧力放出手順に必ず従ってください。高圧部品が爆発しないように、安全上の注意に従ってください。

危険：高圧噴射による人身傷害。高圧での塗料の皮膚高圧噴射は単純な外傷ではありません。直ちに外科的処置を施す必要があります。

警告：火災および爆発の危険性。噴霧を行う際には、すべての安全上の注意に従い、スパークや発火の原因を作らないようにしてください。噴霧操作は機械から 8 メートル以上離れて行ってください。

常に保護具を着用してください。必ずマスク、保護めがね、防護服を着用してください。

スプレー機の始動時および操作中は可動部に近づかないでください。可動部による切断や高熱部品による火傷を防止するため、開口部に指を入れてはなりません。モーターを始動する際には、機器の可動部から安全な距離をとってください。スプレー機の機構部分の調整や点検修理を行う前に、圧力放出手順に従ってください。

警告：スプレーを可燃材料の噴霧に使用しないでください。

警告：スプレーの清掃に可燃性溶剤を使用しないでください。

警告：噴霧剤に起因する危険に注意し、容器のマークまたは噴霧材の製造元が提示する情報と、保護具の使用に関する要件を確認してください。

警告：照明やコンセントなどの電気設備に直接噴霧してはなりません。

ハロゲン化炭化水素溶剤による爆発の危険性

この機械でハロゲン化炭化水素溶剤を使用してはなりません。アルミニウム製の部品に接触すると爆発する可能性があります。

この種の溶剤で一般的なものとしては、四塩化炭素、クロロベンゼン、ジクロロエタン、ジクロロエチルエーテル、臭化エチル、塩化エチル、テトラクロロエタンなどが挙げられます。

静電スパークによる火災/爆発の防止

噴霧時に発生した蒸気は、スパークによって発火する可能性があります。

火災の危険性を低減させるには、噴霧区域からスプレー機が約6メートル（20フィート）以上離れているようにしてください。噴霧区域内でプラグの抜き差しを行ってはいけません。プラグを抜き差しするとスパークが発生し、空気中に残存する蒸気に引火する可能性があります。コーティングおよび溶剤の製造元による安全警告と安全上の注意に従ってください。

医療上の警告 - エアレス噴霧による人身傷害

何らかの液体が皮膚下に高圧噴射された場合は、

直ちに救急処置を受けてください。通常の切り傷と同様の処置を行ってはいけません。

高圧流体の噴出または漏れは皮膚を容易に貫通し、重大な注入損傷を引き起こします。その結果、切断の必要が生ずる可能性があります。

- スプレー機を人および人体のいかなる部分にも**絶対**に向けないでください。
- スプレー機の先端に**絶対**に手や指で触れないでください。ぼろ布などで指を拭いてはなりません。それらの素材を通じて塗料が手に浸透します。
- **絶対**に手または身体の一部で漏れを止めたりそらさないでください。
- 噴霧中は**必ず**先端ガードを取り付けてください。
- 噴霧を停止したら、**必ず**スプレー機のトリガーをロックしてください。
- スプレー機の先端は**必ず**取り外して清掃してください。
- スプレーの先端を清掃または取り外す場合、またはシステム機器の点検修理を行う場合には、**圧力放出手順に必ず**従ってください。

- 使用前に、機器の安全装置が正常に動作することを確認してください。
- 使用前に、すべての流体接続部分を締め付けてください。
- 機器は**絶対に**改造しないでください。
- 噴霧区域内では**絶対に**喫煙しないでください。
- 引火性の高い材料を**絶対に**噴霧しないでください。
- 子供の近くで**絶対に**使用しないでください。
- 安全な使用方法について完全な説明を受け、この取扱説明書を読んでいない限り、他の者にスプレー機を**絶対に**使わないでください。
- 噴霧中は、**必ず**噴霧用のマスク、手袋、保護めがねを着用してください。
- いつでも消火器を使えるように整備しておく必要があります。

絶対に加圧状態でスプレー機を放置してはなりません。圧力放出手順に従ってください。

噴霧区域を必ず点検する

- 噴霧区域には障害物がないようにしてください。
- 噴霧区域では十分な換気を行い、蒸気やミストを安全に排出してください。
- 噴霧区域に可燃材料を**絶対に**置かないでください。
- 裸火やその他の発火源の近くで**絶対に**噴霧しないでください。
- スプレー機は噴霧区域から約 6 メートル（20 フィート）以上離す必要があります。

スプレー機の安全

- スプレー機を使用していない場合、および点検修理または清掃を行う場合には、スプレー機の安全ロックを、**必ず**「ロック」位置に設定してください。
- スプレー機のいかなる部分も、**絶対に**取り除いたり改造しないでください。
- 清掃を行う場合は、スプレー先端を**必ず**取り外してください。最小限の圧力で装置を洗浄します。
- 使用前に、スプレー機のすべての安全装置の動作を**必ず**点検してください。
- スプレー機からスプレー先端またはホースを取り外す場合は、細心の注意を払ってください。接続したラインには加圧された液体が流れます。先端またはラインを接続している場合は、圧力放出手順に従ってください。

先端ガード

- 噴霧中は**必ず**スプレー機に先端ガードを取り付けてください。先端ガードは高圧噴射の危険性に対する注意を喚起し、指や人体の一部がスプレー先端に近づいたときに、誤って触れることを防止します。

スプレー先端の安全

- スプレー先端の清掃または交換は、最大限の注意を払って行ってください。噴霧中にスプレー先端が詰まった場合は、スプレー機の安全ラッチを直ちに掛けてください。必ず**圧力放出手順**に従ってから、スプレー先端を取り外して清掃してください。
- スプレー先端の付着物を**絶対に**拭き取らないでください。

毒性流体の危険性

- **必ず**ポンプの電源をオフにし、**圧力放出手順**に従って圧力を放出してから、先端ガードと先端を取り外してください。
- 有害な液体や有毒ガスが、目に入ったり、皮膚に付着したり、吸入または飲み込んだ場合には、重大な人身傷害や死亡事故の原因になります。使用する液体の危険性をよく理解してください。有害な液体の保管と廃棄については、製造元、地域、州、および国内のガイドラインに従ってください。
- 液体の製造元が推奨する保護めがね、手袋、防護服、マスクを**必ず**着用してください。

ホース

- 使用前に、すべての流体接続部分を確実に締め付けてください。高圧流体によって緩い接合部が外れたり、高圧の噴霧が接合部から放出され、注入損傷や重大な人身傷害が発生する場合があります。
- ホースは、必ずスプリングガードと合わせて使用してください。スプリングガードは、ホースが破裂し、注入損傷を引き起こす原因となる、ホースのねじれやその他の損傷を防止します。ホースがねじれたり潰れたりしないように、またざらざらな面、鋭利な先端、高温面に触れて振動しないように注意してください。
- エアレス噴霧の場合は、必ず導電性流体ホースを使用してください。接続したホースを通じてスプレー機の接地を行ってください。必ず **3000 psi** 認可の高圧エアレスホースと固定ワイヤーを使用してください。
- 損傷したホースは**絶対に**使用しないでください。ホースの不具合や破裂により、注入損傷やその他の重大な人身傷害、または物的損害が発生する可能性があります。使用前にホース全体を点検し、切れ目、漏れ、摩耗、被膜の膨らみ、接合部の損傷やずれがないことを確認します。このような状態が見つかった場合は、直ちにホースを交換してください。
- 高圧流体に耐えられないため、**絶対に**テープなどを使用してホースを修復しないでください。
ホースを連結して接合してはなりません。 高圧ホースを連結して接合することはできません。

接地

- 重大な人身傷害や物的損害の原因となる、静電スパーク、火災、または爆発の危険性を低減させるために、スプレー機やシステム内の部品を接地してください。詳細な接地方法については、地域の電気工事規程を確認してください。
- 装置をコンセントに差し込む際には、**必ず**電源スイッチをオフにしてください。

必ず接地が必要な構成部品：

1. **スプレー機**：損傷していない三つ又プラグを備えた電源コードまたは延長コードを、正しく接地したコンセントに差し込みます。**アダプターを使用してはなりません**。接地プラグ付きの3線式延長コードと、製品の接地プラグに適合するレセプタクルのみを使用してください。延長コードの状態に問題がないことを確認してください。延長コードは、必ず製品の電流に耐えるものを使用してください。不明な場合は重いゲージを使用します。
2. **液体ホース**：必ず接地したホースを使用してください。
3. **スプレー機または注出バルブ**：正しく接地された液体ホースとポンプに接続することで接地できます。
4. **溶剤ペールは導電性金属製のものを使用し、正しく接地する必要があります**。金属製の送水管などの接地にアース線を付けられない限り、非導電性の表面には置かないでください。

いつでも消火器を使えるように整備しておく必要があります。

洗浄の安全性

可燃性の塗料やシンナーを使用して噴霧または洗浄する場合

1. 引火性液体を噴霧する場合は、十分に換気を行ったエリアの噴霧区域から、約 7.6メートル（25 フィート）以上離れた場所に装置を置く必要があります。蒸気が充填しないように、十分な換気が必要です。
2. 静電放電が発生しないように、スプレー機、塗料バケツ、噴霧器の接地を行ってください。「**接地**」を参照してください。3000 psi 用に認可された、導電性の高圧エアレスホースを使用してください。
3. 洗浄する場合はスプレー先端を取り外してください。スプレー機の金属部分をしっかりと持って金属製ペールの側面に当て、可能な限り低い圧力で洗浄します。
4. 高圧での洗浄を行ってはなりません。**圧力は最低にします**。
5. 噴霧/洗浄を行う区域で喫煙してはなりません。
引火点が摂氏 60°C 未満である洗浄溶剤は**絶対**に使用しないでください。そのような溶剤としては、アセトン、ベンゼン、エーテル、ガソリン、ナフサなどがあります。詳しくは製造元にお問い合わせください。

組み立て

必要な工具：2本のモンキースパナ（別売）

1. ホースをポンプに接続し、スパナで締め付けます。
2. ホースをスプレー機に接続し、2本のスパナで締め付けます。



電気接続

ネットワーク電圧は、工具の銘板に記載されている電圧に準拠する必要があります。電源ケーブルが損傷している場合には、いかなる状況でも工具を使用してはなりません。損傷したケーブルは、認可されたカスタマーサービスセンターによる至急の交換が必要です。損傷したケーブルはユーザーご自身で修理しないでください。損傷した電源ケーブルを使用すると、感電する可能性があります。

接地手順

この製品は接地を必要とします。短絡が発生した場合は、接地によって電流を逃がす経路を作ることで、感電の危険性が低減します。この製品は、適切な接地プラグがある接地線が付いたコードを装備しています。接地プラグは、地域のすべての法規制に従って取り付けと接地を行ったコンセントに差し込む必要があります。

警告 - 接地プラグを正しく取り付けないと、感電の危険性が生じます。

コードまたはプラグの修理あるいは交換が必要な場合は、緑色の接地線をどのフラットブレードターミナルにも接続しないでください。緑色（黄色のストライプあり/なし）の絶縁ケーブルは接地線であり、接地ピンに接続する必要があります。接地手順を完全に把握できない場合、または製品を正しく接地できず不安がある場合は、資格のある電気技術者または修理担当者にご相談ください。付属のプラグを改造してはなりません。プラグがコンセントに合わない場合は、資格のある電気技術者に依頼して、適切なコンセントを取り付けてください。

重要：3ブレードの接地プラグが付いた3線式延長コードと、製品のプラグに適合する3スロットのレセプタクルのみを使用してください。延長コードの状態に問題がないことを確認してください。延長コードは、必ず製品の電流に耐えるものを使用してください。サイズが合わないコードを使用すると線間電圧が低下し、電源喪失と過熱の原因になります。12ゲージのコードを推奨します。延長コードを屋外で使用する場合は、コードタイプの名称に続いてW-Aというサフィックスが付いたコードを使用してください。例えばSJTW-Aという名称は、その延長コードが屋外での使用に適していることを示します。

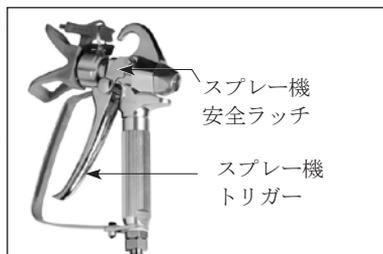
操作

操作を開始する前に、すべての接続金具を締め付けていることを必ず確認してください。

警告：接続が緩んでいると、圧力を加えたときに爆発し、危険な状態を招く可能性があります。すべての接続をしっかりと締め付けたことを確認してください。これには、ホースの両端、スプレー機フィルター、先端ガード、ポンプフィルター、吸引チューブパッキン押さえナットが含まれます。

警告：スプレー機の安全ラッチがロック位置になっていることを必ず確認してください。

スプレー機の安全ラッチは必ず設定しなければなりません。トリガーのロックを解除するのは、スプレー機で実際に噴霧する場合だけです。



プライミング（初期注入）、洗浄、清掃を行う際には、スプレー機の先端は外してください。パッキンに潤滑油を塗布します。締め付けナット/ウェットカップに、スロートシールオイルを2～3滴入れます。



洗浄

ポンプの洗浄が必要な場合

1. ポンプに保存液が入っている場合、新しいスプレー機を最初に作動させる場合、または保管場所から取り出した場合。ミネラルスピリットで洗浄します。
2. 油性の材料と水性の材料を入れ替える場合。最初に石鹼水で洗浄し、さらに清浄水で洗浄します。
3. 清掃を行う場合。この取扱説明書の「**清掃**」の項を参照してください。
4. 保管する場合。50/50の混合率で、ミネラルスピリットとモーターオイルでポンプを充填します。

注意：ポンプに水を長時間入れたままにしてはなりません。ミネラルスピリットで洗浄します。

洗浄方法

1. 洗浄用バケツにきれいな洗浄液を入れ、吸引チューブ/吸い込みホースを浸します。洗浄液としては、ミネラルスピリット（油性材料の場合）、水（水性材料の場合）、または石鹼水（油性材料から水性材料に入れ替える場合）を使用します。
2. 排液チューブと吸引チューブを分離し（クリップでまとめられている場合）、空のバケツに入れます。
3. 始動弁を開きます。
4. 装置の電源をオフにし、圧力制御ノブが最小の設定（反時計回り）になっていることを確認します。装置をコンセントに差し込みます。
5. 装置の電源をオンにします。
6. 圧力制御ノブを時計回りに回して、ポンプが作動し続けるだけの圧力をかけます。
7. ポンプを作動させ、液体が排液チューブから排出されるのを確認します。きれいな洗浄水が出てくるまで、液体を排出させます。種類の異なる材料に切り替えた場合は、ホースとスプレー機も洗浄が必要です。
8. スプレー機先端と先端ガードを取り外し、スプレー機を廃棄バケツに向けてトリガーを引きます。

警告：静電スパーク、火災、爆発の危険性 スプレー機の金属部分をしっかり持ち、金属製ペールの側面に当てます。溶剤ペールは導電性金属製のものを使用し、正しく接地する必要があります。金属製の送水管などの接地にアース線を付けない限り、非導電性の表面には置かないでください。

9. 始動弁を閉めます。
10. ポンプを作動させ、液体がスプレー機から排出されるのを確認します。きれいな洗浄水が出てくるまで、液体を排出させます。

警告：このプロセスではスプレー機のトリガーを放さないでください。 トリガーを放すと、圧力がライン内で増加し、トリガーを再度引いたときにスプラッシュバックが発生する危険性があります。

11. 装置の電源をオフにし、圧力制御ノブを反時計回りに回して最小の設定にします。装置のプラグを抜きます。
ポンプがきれいになり、材料を入れて始動できる状態です。

プライミング

これは高圧ポンプであるため、噴霧を開始するには、エアーと不要な液体をポンプとラインから完全に排出する必要があります。
先端と先端ガードをスプレー機から取り外し、トリガーがロックされたことを確認します。

プライミングの方法

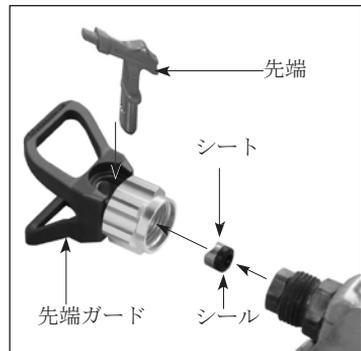
1. 吸引チューブを材料バケット内に入れます。
2. 排液チューブを廃棄バケットに入れ、始動弁を開きます。
3. 圧力制御ノブが最小位置にあり、装置の電源がオフになっていることを確認します。装置のプラグを差し込み、電源をオンにします。
4. 圧力制御ノブを時計回りにゆっくり回し、ポンプが作動し続けるだけの圧力をかけます。
5. ポンプを作動させ、液体が排液チューブから排出されるのを確認します。きれいな材料が出てくるまで、液体を排出させます。
6. スプレー機を廃棄バケットに向け、トリガーのロックを解除してトリガーを引きます。始動弁を閉めます。
7. トリガーを引いたまま、ポンプを作動させ、液体がスプレー機から排出されるのを確認します。きれいな材料が出てくるまで、液体を排出させます。機械の電源をオフにします。
8. さらにエアーを排出するには、スプレー機を材料バケットまたはホッパーに向け、トリガーを引きます。機械の電源をオンにし、きれいな材料を再循環させます。材料に気泡がないことを確認します。
9. 装置の電源をオフにしてトリガーをロックします。
材料バケット内で排液チューブと吸引チューブを再度まとめます。

これで装置のプライミングが完了し、先端と先端ガードを取り付ける準備ができました。

スプレー先端アセンブリ

警告：装置が加圧中である場合は、圧力放出手順に従ってから先端の調整を開始します。

1. 先端と先端ガードをスプレー機に取り付ける前に、スプレー機の安全ラッチがロックされていることをダブルチェックしてください。
2. シールがシート上の所定の位置にはめ込まれていることを確認し、先端ガードにシートを挿入します。先端ガードの円形の開口部に位置合わせされていることを確認します。
3. 先端ガードをスプレー機に取り付けて締め付けます。
4. 先端を先端ガードに挿入し、完全に固定されたことを確認します。先端を前方部分まで回転させます（先端ハンドルの矢印が前方を示します）。先端を 180 度回転させることで詰まり



が除去されます。

5. 先端ガードアセンブリを目的の方向に回転させ、ロックナットを手で締め付けます。

警告：先端が完全に前方または完全に反対方向以外の位置で噴霧してはなりません。高圧の危険性が発生します。

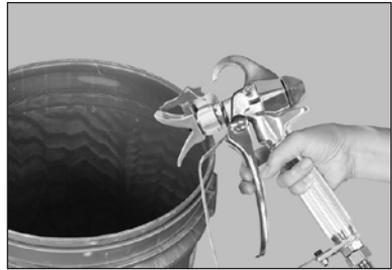
これで噴霧の準備ができました。

圧力放出手順

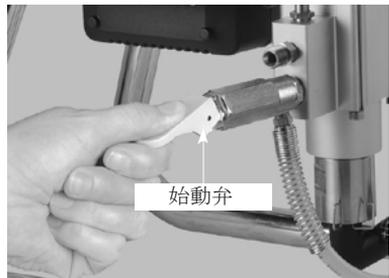
噴霧を停止した場合は、短時間の停止であっても、圧力放出手順に従ってください。

重要：スプレー機の電源をオフにした場合、あるいは点検、取り付け、先端の交換または洗浄、材料の追加など、何らかの理由で噴霧を停止した場合は、重大な人身傷害を防ぐために、必ずこの手順に従ってください。加圧状態で絶対に装置を放置しないでください。

1. スプレー機の安全ラッチを掛けます。
2. On/Off スイッチで装置の電源をオフにします。
3. スプレー機の安全ラッチを解除し、スプレー機のトリガーを引いて残留液体圧力を解放します。スプレー機の金属部分を持ち、接地された金属バケツに接触させます。安全ラッチを掛けます。
4. 始動弁を開いた位置（プライミング）までゆっくりと回し、残留液体圧力を解放します。始動弁を閉めます。



警告：スプレーの先端またはホースが詰まっている場合は、始動弁を開いたときにバケツに材料が放出されます。そのため始動弁は、安全上の注意を払いながらゆっくりと開けてください。



噴霧

半分の長さでストロークを繰り返します。それには、先端を前のストロークの端点に合わせます。

スプレー先端から詰まりを除去する方法

1. スプレー機の安全ラッチを掛け、**圧力放出手順に従います。**
2. 先端のハンドルを 180 度回します。
3. トリガーのロックを解除し、ペールに向けて噴霧します。
4. 先端ハンドルがロックされている場合は、止めナットを緩めます。ハンドルがスムーズに回るようになります。
5. スプレー機の安全ラッチを掛け、先端をスプレー位置に戻します。



先端が完全に前方または完全に反対方向以外の位置で噴霧してはなりません。

清掃

その日の作業が終了したら、ライン内の材料を回収し、機械を完全に清掃してください。

1. **圧力放出手順**に従い、システム内の圧力を解放します。
2. 先端と先端ガードを取り外します。
3. 吸引チューブをすすぎ、適切な洗浄溶液を入れたバケットに入れます。
4. ポンプ内の材料を回収するには、排液チューブを元の材料バケットに入れます。始動弁が開いた位置のままで、機械の電源をオンにし、ポンプが始動するまで圧力制御ノブを時計回りに回します。排液チューブから材料が排出され、材料が薄まることを確認します。これは、洗浄液がポンプによって排出され始めたことを示します。次に排液チューブを廃棄バケットに移し、きれいな洗浄液が流れ出るまで洗浄を続けます。
5. 機械の電源をオフにし、圧力制御ノブを最小の位置に戻します。始動弁を閉めます。
6. ライン内の材料を回収するには、先端と先端ガードを取り外し、スプレー機を材料バケットに向けてトリガーを引きます。
7. 廃棄バケットを材料バケットのすぐ横に置きます。
8. 圧力ノブが最小位置にあることを確認し、装置の電源をオンにします。
9. トリガーを引いたまま、圧力ノブを時計回りにゆっくり回して、ポンプが始動するまで圧力を上げます。
10. ポンプを動作させ、材料がスプレー機から排出されるのを確認します。材料が薄まるまで液体を排出させます。これは、洗浄液がホース内を上がってきたことを示します。
11. トリガーを引いたまま、スプレー機を材料バケットから横にある廃棄バケットに素早く移します。

警告：このプロセスではスプレー機のトリガーを放さないでください。トリガーを放すと、圧力がライン内で増加し、トリガーを再度引いたときにスプラッシュバックが発生する危険性があります。

12. トリガーを引いたまま、ポンプを作動させ、液体がスプレー機から排出されるのを確認します。材料が完全に除去され、きれいな洗浄液が流れ出すまで排出を続けます。
13. トリガーを引いたまま、スプレー機を洗浄バケットに移し、洗浄液を2～3分間再循環させ、材料が完全に除去されたことを確認します。
14. 機械の電源をオフにし、プラグを引き抜きます。始動弁を開き、残留圧力を解放します。
15. スプレー機、先端、スプレー機フィルターを清掃します。ハンドガードのクリップを外し、回しながら取り外します。次にスパナ（別売）を使用してハンドル底部のナットを緩め、ハンドルを取り外し、スプレー機フィルターを取り外します。
先端とフィルターを適切な溶剤に浸し、柔らかいブラシで清掃します。スプレー機ハウジング内部に、WD-40などの軽油を少量塗布します。スプレー機にフィルターを取り付け、スパナでナットを締め付けて装置を組み立て直します。
16. 適切な溶剤に浸したぼろ布で、スプレー機の外側を清掃します。
17. 水で洗浄した場合は、ミネラルスピリットで再度洗浄し、ポンプ内部の腐食を防止してください。



注意：ポンプに水を入れたままにしてはなりません。水はポンプの腐食の原因になります。

長期保管

長期にわたって保管する場合は、モーターオイルとミネラルスピリットを50/50の比率で混合させた保存液でポンプを充填します。

メンテナンス

作動時間が50時間になると、無負荷でモーターを作動させながら圧縮空気を通し、堆積した粉塵を除去します（特に粉塵が多い状態で操作している場合は、この処置の頻度を上げてください）。

1 時間ごとのメンテナンス

噴霧時間が1時間に達するたびに、機械を停止し、圧力放出手順を実施し、以下の手順に従ってください。

- パッキンの潤滑油として、スロートシールオイルを2滴ほど塗布します。
- 必要に応じて吸気ストレーナーを清掃します。

注意：ポンプは背面を下にして置かないでください。材料が逆流し、電子部品やモーターが損傷する可能性があります。

日常のメンテナンス

1. 排気ポンプの締め付けナットには、潤滑油として常時スロートシールオイルを塗布してください。毎日の作業開始前に、5滴ほどのオイルをポンプ上部に塗布します。さらに、1時間噴霧するごとに2滴のオイルを塗布します。スロートシールオイルにより、ピストン、ロッド、パッキンが保護されます。
2. 締め付けナットは毎日点検してください。以下のいずれかの状態になった場合は、締め付けナットを締め付けてください。
 - a. パッキンから材料が漏れ出している。
 - b. モーターの停止中にシステムが加圧された状態で、ピストンが正しい位置に保持されず、上方にスリップする。

締め付けナットを締め付ける方法：開口部から回り柄に手を伸ばし、締め付けナットを締めます。

注意：締め付けナットは、漏れが止まる程度の強さで締めてください。あまり締め付けるとパッキンが損傷し、寿命が短くなります。

3. 吸入チェックボールとシートを清掃します。

清掃方法：

1. ホースクリップ（71）を外して吸引チューブ（73）を取り外し、ホースを引き出します。スパナを使用してパッキン押さえナットを緩めます。
2. チェックボールとボールガイドを取り外し、関連部品をすべて清掃します。
3. 逆の手順で元のように取り付け、締め付けます。

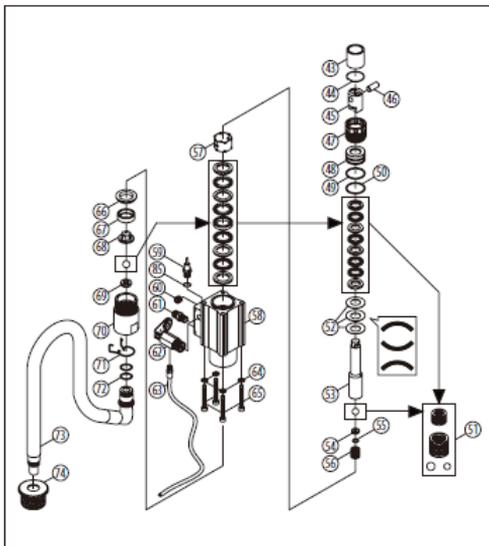
ポンプパッキン

パッキンは消耗部品です。ポンプの圧力が維持されず、プライミングがしづらくなり、液剤がポンプのスロートに滲み出る状態で、締め付けナットを締めても改善されない場合は、パッキンの交換が必要です。この作業は資格のある修理技師に依頼してください。

ポンプを取り外してパッキンを交換する場合は、以下の手順に従ってください。

ポンプの取り外し

1. ホースクリップを外して吸引チューブを取り外し、ホースを引き出します。
2. ピストンが最下点に来るまでポンプを回します。その場合は、左側フレーム脚 (77) を取り外してから 12 本のねじを外し、左側モーターハウジング (38) を取り外す必要があります。それにより、背面からファンを回してモーターを動作できます。
3. 4 本のソケット押さえねじ (65) を緩めて外します。
4. ポンプを前方に引き、駆動ピストン (45) の下部にあるスロットの排気ピストン (53) を解放します (解放するには、ピストンが最下点に来ていなければなりません。上記手順 2 を参照)。
5. これでポンプ装置を取り外すことができます。
6. 取り外しと逆の手順で取り付けます。組み立てる際には、駆動ピストンの接合スロットに潤滑油を塗布してください。

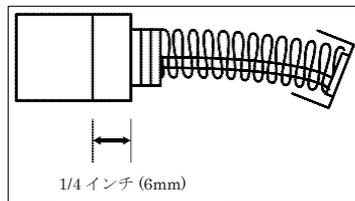


パッキンの交換

1. 回り柄を使用して締め付けナットを緩め、取り外します。
2. ピストンを引き出します。
3. すべての部品を取り外して清掃します。万力の生爪で排気ピストン (53) を固定し、ボールシートファスナー (56) を取り外して、小型ボールシート (54) と小型チェックボールを取り外します。
4. 古くなったパッキンをすべて廃棄します。
5. 組み立てる前に、新しいレザーパッキンを W30 オイルに 1 時間以上浸します。
6. パッキン、パッキン押さえ、O リング、チェックボールを、復元キットの新しい部品と交換します。正しい順序と方向に厳格に従ってください。
7. ピストンを交換し、締め付けナットで固定します。ディスクスプリングによる抵抗を感じたら、締め付けナットをさらに 4 分の 3 回します。

炭素ブラシ

炭素ブラシは通常の消耗部品であり、摩耗限度に達した場合は交換する必要があります。ブラシが1/4インチの長さまで摩耗したら、セット全体を交換してください。



ブラシの交換方法

1. 機械のプラグを引き抜きます。
2. スロット型ねじでブラシキャップを取り外します。
3. ブラシを取り外します。
4. 逆の順序で新しいブラシを取り付け、カバーを交換します。



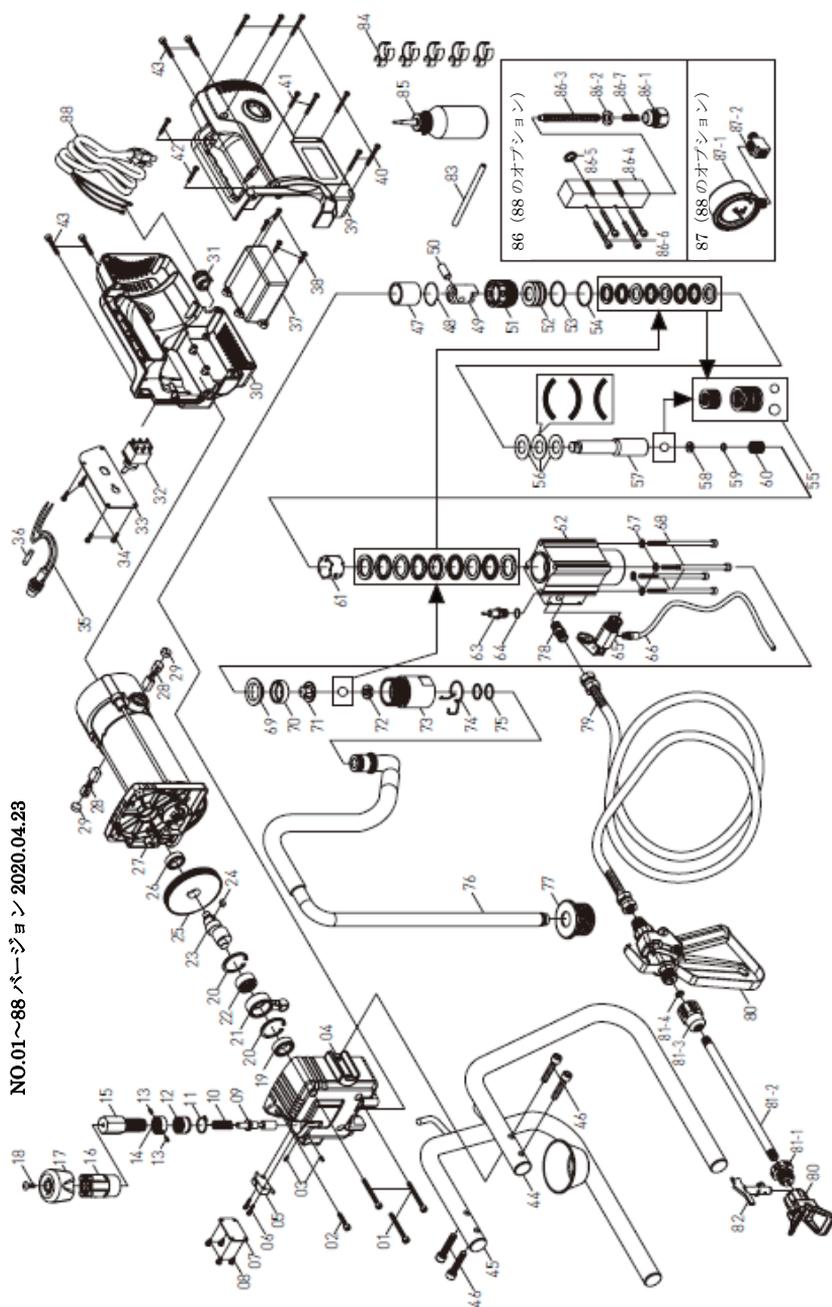
電源コードの交換が必要な場合は、安全上の危険を回避するために、製造元または代理店に交換を依頼してください。

警告：修理は、認可されたサービスセンターに依頼する必要があります。修理を正しく行わないと、人身傷害や死亡事故につながる可能性があります。

トラブルシューティング

問題：モーターが作動しない	
点検箇所	解決策
電源供給・機械の銘板に記載されている電圧に準拠する必要がある	正しいコンセントを使用する
延長コード・連続性を確認する	延長コードを交換する
電源ケーブル・連続性を確認する	ケーブルを交換する
炭素ブラシ	ブラシを交換する
スイッチの不具合	スイッチを交換する
モーターの損傷	モーターを交換または修理する
問題：ポンプがプライムを失うか始動しない	
点検箇所	解決策
材料が消耗した	充填する
吸気ストレーナーが詰まった	清掃する
吸い込みパイプが緩んだ	接合部を締め付ける
吸入ボールが固定されていない	清掃するか交換する
問題：モーターによってポンプが作動しない	
点検箇所	解決策
ポンプ内で材料が凝固している	パッキンを交換し、ポンプとフィルター部品をすべて清掃する
ポンプ内で材料が凍結している	ポンプ内を解凍する
問題：圧力の問題	
点検箇所	解決策
先端またはフィルターが詰まった	圧力を解放して清掃する
問題：モーターが圧力を維持できない	
点検箇所	解決策
先端が大きすぎる	スプレー機に適した先端を使用する
先端が摩耗してサイズが合わなくなった	圧力を解放して先端を交換する
問題：低出力	
点検箇所	解決策
先端が摩耗した	圧力を解放して先端を交換する
パッキンが摩耗した	パッキンを交換する
フィルターが詰まった	圧力を解放してフィルターを清掃する
始動弁に漏れがある	圧力を解放して弁を修理する
吸い込みパイプに漏れがあるかねじれている	ねじれを直すか、必要に応じて締め付ける
低電圧	問題を修正し、短い延長コードを使用する
トリガーを放してもポンプが停止しない	ポンプを修理するかナットを締め付ける
問題：モーターが高熱で過負荷になっている	
点検箇所	解決策
パッキンを締め付けすぎている	締め付けナットを正しく調整する

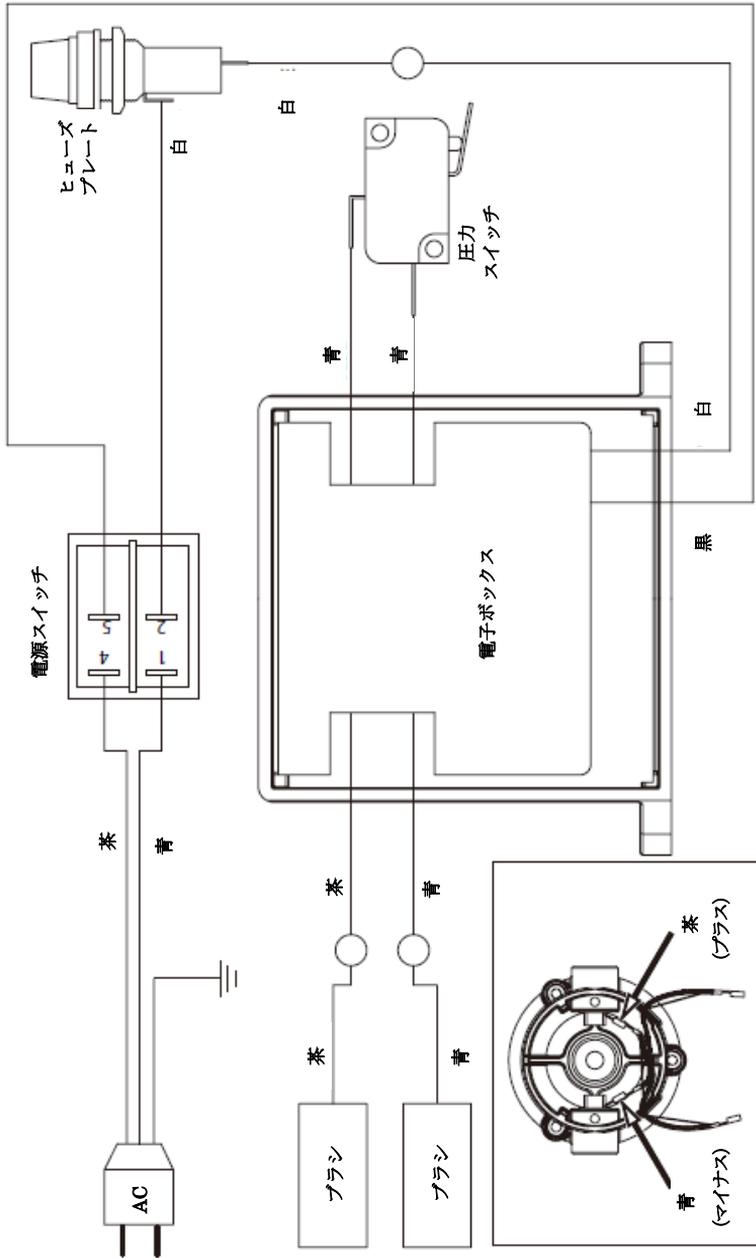
分解立体図



部品一覧

番号	部品名	数量	番号	部品名	数量
1	ソケットキャップ押さえねじ (M5x50xP0.8)	3	50	ポンプリストピン (Ø10x23.5)	1
2	ソケットキャップ押さえねじ (M5x25xP0.8)	1	51	締め付けナット (M38xP1.5)	1
3	ソケット止めねじ (M5x6xP0.8)	2	52	シールシート (Ø27.8xØ35)	1
4	ギヤハウジング	1	53	Oリング (S-31.5)	1
5	リミットスイッチ (110V&220V)	1	54	Oリング (Ø31.2xØ35.1x1.8)	1
6	なべ頭小ねじ (M3x15xP0.5)	2	55	チェックボールおよびピストンパッキン	1
7	フェンス	1	56	ディスクスプリング (Ø18xØ34.7x1)	3
8	なべ頭小ねじ (M4x8xP0.7)	4	57	排気ピストン	1
9	圧力ピストン	1	58	ボールシート (Ø4xØ13.8x4)	1
10	スプリング (Ø2.35xØ7.2xØ13.8x11Tx40L)	1	59	Oリング (2009)	1
11	内部スナップリング (IS17)	1	60	ボールシートファスナー (M16xP1.0)	1
12	アジャスタースリーブ	1	61	パッキンスペーサー	1
13	ソケット止めねじ (M4x4xP0.7)	2	62	ポンプハウジング	1
14	スリーブ	1	63	圧力アクチュエーター	1
15	圧力調整ねじ	1	64	スペーサー (Ø10xØ15x2)	1
16	圧力調整ノブ	1	65	始動弁	1
17	圧力調整グリップ	1	66	排液チューブ (PT1/8"x1.28M)	1
18	トラスヘッド小ねじ (M5x15xP0.8)	1	67	平ワッシャー (1/4"xØ10x1)	4
19	ボールベアリング (6200)	1	68	ソケットキャップ押さえねじ (M6x110xP1.0)	4
20	外部スナップリング (IR28)	2	69	スペーサー (Ø25.5xØ37x7)	1
21	ピストン/コネクティングロッドアセンブリ	1	70	内部スペーサー	1
22	ニードルベアリング (HK 2212)	1	71	ボールガイド	1
23	スピンドル	1	72	ボールシート (Ø9xØ20x5)	1
24	平行キー (5x5x10)	1	73	パッキン押さえナット	1
25	入力ギア (M1.0x86T)	1	74	ホースクリップ	1
26	ボールベアリング (6000)	1	75	Oリング (Ø19.8xØ24.6x2.4)	2
27	モーター装置 (110V/220)	1	76	吸い込みホース	1
28	炭素ブラシ (7x11x16)	2	77	吸気ストレーナー (16MESH)	1
29	ブラシキャップ (7x11)	2	78	出力ニップル (PT 1/4" x 1/4"-19PF)	1
30	モーターサイドカバー・右	1	79	高圧ホース (1/4"-18UNF)	1
31	ケーブルグランド (SB8R-3) (7P-2)	1	80	エアアシスト式エアレス スプレー機	1
32	電源スイッチ (110V & 220V)	1	81	先端延長 (L15"-7/8")	1
33	スイッチパネル	1	82	先端	
34	なべ頭タッピンねじ (M4x12)	4	83	締め付けナット回り柄	1
35	ヒューズプレート (110V&220V)	1	84	チューブホルダー (Ø11xØ22)	5
36	ヒューズ (110V/220)	1	85	潤滑油タンク	1
37	電子装置 (110V/220)	1	86	フィルターアセンブリ (100MESH)	1
38	なべ頭タッピンねじ・B (M4x14)	4	86-1	フィルターナット	1
39	モーターサイドカバー・左	1	86-2	アーバースペーサーディスク (Ø11xØ20x4)	1
40	なべ頭タッピンねじ (M4x35)	6	86-3	フィルター (100MESH)	1
41	なべ頭タッピンねじ (M4x30)	2	86-4	フィルターハウジング	1
42	なべ頭タッピンねじ (M4x20)	2	86-5	アーバースペーサーディスク	1
43	ソケットキャップ押さえねじ (M5x25xP0.8)	4	86-6	ソケットキャップ押さえねじ (M5x35xP0.8)	4
44	フレーム・左	1	86-7	スプリング (Ø0.5xØ8.5xØ9.5x9Tx28L)	1
45	フレーム	1	87	圧力ゲージアセンブリ	1
46	ソケットキャップ押さえねじ (M8x35xP1.25)	4	87-1	空気圧ゲージ	1
47	プッシング (Ø32xØ26x30)	1	87-2	ランティール	1
48	外部スナップリング (IR32)	1	88	電源ケーブル (VDE10x3Cx2.5M-H05VVF)	1
49	駆動ピストン	1			

配線



製造元 : AGP TAIWAN

Lee Yeong Industrial Co., Ltd.

A No.2, Kejia Rd., Douliu City, Yunlin County 64057, Taiwan

www.agp-powertools.com

国内代理店 : 株式会社ティエーシーエス

〒174-0053 東京都板橋区清水町 47-5

TEL: 03-3962-8755 FAX: 03-3964-9789

<https://www.tacs-resinoid.jp>

<https://www.agptools.jp>